

阿賀野川 えとこだより



ここにあるすべてを、
かけがえのない
「宝もん」へ。

「エディブルフラワーの栽培」場所：(株)脇坂園芸(阿賀野市境新 209)／木村正晃氏撮影

もくじ ●

- 特集1 阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム(第7回)開催レポート 2
- 特集2 阿賀の宝もん★発掘レポート 4
- 阿賀野市のエディブルフラワー
- 「阿賀町近代化遺産の光と影」
- 小・中学校向け教材化プロジェクト
- 新潟水俣病トビックスほか
- 平成29年度ロバダンイベント開催レポート
- インフォメーション

新しい「阿賀の宝もん」を地方創生や次世代へ生かすために

「地域の宝もん」に新しい価値を付加する試みを通じて

阿賀野川流域の歴史や文化に刻まれた光と影だけでなく、流域の旬な魅力や光輝く資源の発掘・発信にも注力してきたFM事業※。特に近年の取材を通じて「地域の宝もん」に新しい価値を生み出すと奮闘する人々の取組や成果から学ぶものが大きく、次世代も注目しています。

例えば「農業の六次産業化」の潮流から生まれた一部の成功事例を探ると、付加価値を生み出すための壮絶な努力や時宜を得た行動力など、重要な知見や知恵が次々と発見されます。しかし、こうした背景は外部からは観察しにくく、なかなか理解されづらい面もあるため、地方創生や次世代のために活かされたい実情もあります。

翻って、FM事業がメインで注力してきた「流域の光と影」についても、こうした新しい価値を追求する現在の知見や知恵から学ぶべき点は多く、流域の次世代へ継承できるような新たな試みが必要な段階にきています。今号では、そうした流域の「現在の奮闘」や過去の光と影が新たな価値を生み出すとする取組などを紹介しています。

※FM 事業とは「阿賀野川えとこだプロジェクト」のこと。詳細はP. 8参照。

この情報誌は環境省の補助を受けて新潟県が発行しています。

夏休みこども工作

りさいくる 利再来



工作に参加
してスタンプ
を集めよう!

けい品が
もらえるよ!



期間 7月26日(木)～8月21日(火)
時間 毎日・10時～と14時～の2回
※月曜日は休館日です。

参加 各回先着20名
※受付は開始30分前から

ふれあい館にて!
参加無料!

※ 都合により一部を変更または中止する場合がございますので、あらかじめご了承ください。また、危険防止のため、未就学児は保護者と一緒にの参加をお願いします。

2018年工作 カレンダー



	日	月	火	水	木	金	土
7月	29 貝がら 風鈴	30 休館	31 しゅりけん スピナー		26 水のり 万華鏡	27 動物 カードたて	28 しゅりけん スピナー
8月	5 水のり 万華鏡	6 休館	7 Pキャップ ヨーヨー	1 ローリング	2 動物 カードたて	3 スライム	4 ねこがた モビール
	12 ねこがた モビール	13 休館	14 Pキャップ ヨーヨー	8 ローリング	9 水のり 万華鏡	10 貝がら 風鈴	11 Pキャップ ヨーヨー
	19 水のり 万華鏡	20 休館	21 スライム	15 貝がら 風鈴	16 スライム	17 しゅりけん スピナー	18 動物 カードたて



県立環境と人間のふれあい館
- 新潟水俣病資料館 -

お問合せ
住所 新潟市北区前新田字新々園乙 364-7
(福島湯のほとり、「ビュー福島湯」の隣です)
TEL 025-387-1450 / FAX 025-387-1451
メール fureai@abeam.ocn.ne.jp
ホームページ URL http://www.fureaikan.net/
ツイッターはじめました! @fureai9
ふれあい館の情報をつぶやきますので、
もしよろしければフォローしてください!

水環境保全パネル展

～みんなで水の大切さを考えてみよう～

生活に身近な下水道と浄化槽のしくみを通じて、
水環境保全の取り組みを紹介します。

展示期間 ● 平成30年7月5日(木)～22日(日)
その他 ● 入場料無料、観覧自由 ※月曜休館(祝日の場合は翌日)

上記各イベントの詳細は、上記お問合せ先までご連絡いただくか、ふれあい館のホームページをご覧ください!

「阿賀野川えとこだプロジェクト」とは?

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(略称FM事業)と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」をつむぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川えとこだ! 憲章(事業理念)

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。(阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会)

編集後記

第25号はいかがでしたでしょうか?
今号の「阿賀野川えとこだより」では毎年恒例の特集のほか、前号から始まった新コーナー「阿賀の宝もん★発掘レポート」の第2弾をお届けしました! 特に今年度からは、阿賀野川流域で奮闘し様々な成果を上げてこられた人物や団体取材し、皆さんにお伝えしようと考えています。
10月発行予定の次号もご期待ください!



今号表紙の写真「食用花の栽培」

阿賀野市の良質な風土で長年花き栽培を営んできた(株)脇坂園芸さんが、数年前に6次産業化を成功させた「エディブルフラワー(食用花)」の栽培風景を撮影した一枚。その取組の詳細については、本文P4～5をお読みください。

阿賀野川えとこだより 第25号

発行:新潟県(※環境省補助事業) 発行日:2018年7月10日
企画編集:一般社団法人あがのかわ環境学舎(〒959-2221 阿賀野市保田 3866-1)

TEL.&FAX. 0250-68-5424
aganogawa@niigata.email.ne.jp

阿賀野川えとこだ!流域通信
https://aganogawa.info/



次世代 新潟水俣病の現地学習の現在



発表 筑波大学大学院卒 佐々木暢さん

講師を務めた佐々木暢さんは、小・中学校における新潟水俣病学習をテーマとした修士論文を執筆しました。その成果を踏まえて、現在の公害学習の現況や今後の方向性について発表していただきました。

公害

貴重な写真でたどる 新潟水俣病のあらし



新潟水俣病が表面化してから現在に至るまでの経緯は複雑ですが、平成29年度に制作したパネル作品を中心に、当時の写真をたどりながら分かりやすく解説しました。

歴史 新潟を旅立ったイザベラ・バード ～その行路をたどって、北区を再発見！



阿賀野川をくだり新潟町に滞在後、新潟市東区・北区を横断したイザベラ・バードについて、北宝隊代表の本間修一氏などが当時の貴重な写真や史料をもとに、バードの行程を追体験しながら東区・北区の歴史や魅力について講義しました。



講師 北宝隊代表 本間修一氏

流域食 阿賀野川や福島潟の川魚などを試食



「写真集 水と土と農民」(亀田郷土地改良区)



当日は福島潟で捕れた寒鰯と、松浜内水面漁協が阿賀野川下流で獲ったヤツメウナギなどを味わいました。

オプションプログラム ふれあい館常設展示案内



▲当日参加された多くの方が館内案内を体験されました。



参加者の主な感想等

- 昔の写真が現在とつながった。産業の発展と環境破壊はセットで終わらない問題。(北区・50代)
- 各団体の現地学習の実態を比較する説明は初めて聞いたが分かりやすくて良い。(北区・60代)
- 昭和の川魚は貴重な蛋白源だった。今食べると、昔の懐かしい味が思い出された。(北区・80代)
- とても面白く、当時の情景が目に見え、お二人の掛け合いも楽しかった。(江南区・40代)
- 水俣病はニュースで見ていた程度で、とても勉強になりました。継続を願う。(秋葉区・60代)

特集 1

阿賀野川エコミュージアムを目指す 流域再生フォーラム(第7回)



流域再生・光と影の宝ものがたり ～食・歴史・公害・次世代～

開催レポート！

日時：平成30年3月25日(日) 当日 70名参加
場所：環境と人間のふれあい館

流域再生を多面的に理解する「食・歴史・公害・次世代」の4つをテーマに、流域再生の具体的な取組を紹介しました。

今回、FM 事業では初めてふれあい館を会場として開催し、当日は大勢の流域住民の方々からご参加いただきました。



当日の開催内容

1. 新潟水俣病のあらしを振り返る
2. 新潟水俣病の現地学習の現在
3. 新潟を旅立ったイザベラ・バード
4. 流域の川魚試食
5. ふれあい館の常設展示案内

